

新・旧課程「理科②」で、「得点調整」“実施”!

旧・物理 I (69.93 点) - 新・生物(48.39 点) = “21.54 点” は、
“試験問題の難易差” によると判断!

旺文社 教育情報センター 27年1月23日

大学入試センターは本日(1月23日)、去る18日(日)に実施したセンター試験(本試)の物理 I (旧課程科目: 69.93 点)と生物(新課程科目: 48.39 点)の間で20点以上の平均点差が生じ、その要因は「試験問題の難易差」によると判断し、「得点調整」の実施を決定した。

- 27年センター試験は、数学・理科が新課程に沿って出題され、旧課程履修者には旧課程科目も用意された。そのため、27年の「得点調整」は旧課程科目も含め、次の各科目間で原則として“20点以上”の平均点差が生じ、これが“試験問題の難易差”に基づくものと認められる場合に得点調整が行われる。ただし、受験者数が“1万人未満の科目”は、得点調整の対象外とされている。

27年センター試験「得点調整」の対象

- (1) 地理歴史の「世界史B」、「日本史B」、「地理B」の間
- (2) 公民の「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の間
- (3) 数学①の「数学I・数学A」と「旧数学I・旧数学A」の間
- (4) 数学②の「数学II・数学B」と「旧数学II・旧数学B」の間
- (5) 理科②の「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「物理I」、「化学I」、「生物I」、「地学I」の間

- 1月23日時点(受験者集計数: 53万126人)での上記の「得点調整」対象科目の平均点をみると、「物理 I (旧課程科目: 69.93 点) - 生物(新課程科目: 48.39 点) = 21.54 点」である。この平均点差は、両科目の「試験問題の難易差」によるものと判断され、得点調整が実施されることになったとみられる。

なお、物理 I と地学(新課程科目: 40.89 点)との平均点差は 29.04 点と大きく開いているが、地学の受験者(1,991 人)が 1 万人未満であるため、得点調整の対象から除外される。

- 得点調整は、受験者間での公平性の観点から、平均点差の全てを調整するのではなく、調整後も平均点差が 15 点(通常起こり得る平均点の変動範囲)となるよう、「分位点差縮小法」によって行われる。また、平均点が最大及び最小以外の科目についても、素点の平均点差が同一の比率で縮小されるよう調整される。

具体的な調整の仕方については、大学入試センターのホームページに掲載されている「換算表」等を参照されたい。

- センター試験の得点調整は平成 10(1998)年の地歴(B 科目)で行われ、今回は 2 回目。

* 大学入試センターのホームページ <http://www.dnc.ac.jp/>